

平成27年1月29日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 徳島県教育委員会
 所在地 徳島県徳島市万代町1丁目1番地
 代表者職氏名 教育長 佐野 義行

平成26年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成27年3月31日

1. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	とくしまけんりつあわにしこうとうがっこう	ふりがな	きたいけ きよたけ
学校名	徳島県立阿波西高等学校	校長名	北池 清剛
ふりがな	あわしりつあわちゅうがっこう	ふりがな	しおた しょうじ
学校名	阿波市立阿波中学校	校長名	塩田 昭治
ふりがな	あわしりつひさかつしょうがっこう	ふりがな	やすはら たけし
学校名	阿波市立久勝小学校	校長名	安原 剛
ふりがな	あわしりついさわしょうがっこう	ふりがな	おかもと ひろこ
学校名	阿波市立伊沢小学校	校長名	岡本 弘子
ふりがな	あわしりつはやししょうがっこう	ふりがな	ふじもと いさお
学校名	阿波市立林小学校	校長名	藤本 功男

研究内容

(1) 研究開発課題

豊かなコミュニケーション能力を育むため、小中高で連携のとれた教育環境を育み、高校までを見通した教育課程や指導方法、評価方法の研究開発を行う。

(2) 研究の概要

小中高の教職員が協働し、これまで阿波市が培ってきた小学校英語活動の手法やカリキュラムを土台にして、地域子どもたちが将来グローバル社会の中にあっても、自らの未来を自らの力で切り開いていけるような、言語運用能力・コミュニケーション能力を育成する。

小学校では、初歩的な英語運用能力・コミュニケーション能力を育てるために第1学年から英

語活動を行い、第5学年からは「読むこと」「書くこと」を含めた教科型の授業を行う。中学校は、身近な事柄を中心に英語でコミュニケーションを図ることができる能力を養うために、小学校で身に付けた能力の上に立って、内容に踏み込んだ言語活動を取り入れた授業を行うなど、指導方法や授業内容の研究開発を行う。高等学校では中学校で身に付けた能力の上に立って、英語を通じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養うため、言語活動の高度化などの指導方法の研究開発を行う。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

阿波市では、「国際社会の中で活躍できる人材を育成するために、子どもたちに将来的には『使える英語』を身につけさせることが必要であり、言葉を学ぶには、できるだけ早い段階が効果的」との考えから、平成18年に、市の施策のひとつとして、小学校での英語活動を開始した。学校裁量の時間を使い、小学校1年生から6年生まで週1時間の英語活動を実施し、今年で9年目となる。現在では、交流学习や体験活動を取り入れたカリキュラムや教材も整い、担任と阿波市英語講師（外部人材）による充実した英語活動が行われている。児童の英語活動に対する関心も高く、阿波市全体では、94%の児童が英語活動を「とても楽しい」「まあまあ楽しい」と答えている。また、89%の児童が英語活動に進んで参加しており、92%の児童がもっと英語で話したり聞いたりできるようになりたいと答えている。（平成25年度小学校英語活動に関するアンケートより）保護者に行ったアンケートでも、阿波市が実施する小学校英語活動の取組について、支持する声が高く、好印象をもっていただいている。小中連携の取組としては、連携協議会、授業見学会をはじめ、中学校1年生の英語科の授業に阿波市英語講師がT2として参加し、小学校での学びをつなぐ工夫を行うなど、中学校への段差の少ない接続について研究している。児童生徒は全般に英語の音やリズムに慣れ親しんでおり、初歩的な英語の質問に対しては理解しよう、答えようとする姿勢が育っている。中学生になっても、小学校で培われた素地により、間違いを恐れずに話そうとする態度、積極的に発表しようとする姿が見られている。

一方、友達とかかわったり、外国に対して学んだりすることへの積極性が見られる反面、「自分のことを表現すること」については消極的な面が見られる。高学年になるにしたがって、興味関心の対象も変化し、歌やチャンツ中心の英語活動よりも、知的好奇心をくすぐるような教材や、達成目標があり、課題をグループで解決するような内容を好むようになった。文字に関しても、「書いてみたい。」「読めるようになりたい。」という声が、学びが高まってきた高学年の約75%の児童から聞かれるようになった。

中学校では、4技能のうちでも「書くこと」へ指導方法が長年の課題となっている。小学校で英語を話したり、聞いたりすることに慣れ親しんできた生徒たちであるが、「書くこと」に慣れるには、長い時間を必要とする。しかし、文字を習って間もなくから、教科書の単語や文法、英語の表現など、たくさん「書くこと」が増える。そのような中学校の授業を、難しく感じる生徒も少なくない。だが、昨年12月に中学校1年生に行ったアンケートを見ると、「書くこと」をやってみたいと答えた生徒数は、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」とほとんど変わらない結果だった。難しさは感じているものの、英語を書きたいという思いは

高いことがわかっている。

また、阿波市と阿波西高等学校は連携型中高一貫教育を実施しており、教員交流を通しての生徒理解や授業理解をはじめ、様々な連携に取り組んでいる。

以上の現状から、今後ますます広がるグローバル化社会の中で、未来を切り拓いていく力の一つとして必要となってくる英語力と、豊かなコミュニケーション能力を阿波市の子どもたちに育成するために、これまで培ってきた阿波市小学校英語活動の手法やカリキュラムを土台にしながら、人と関わる力と合わせて、自己を表現する力も身につけさせたい。また、「英語は楽しい。」と感じているその思いと素地を、中学校、高校へとうまくつなげて伸ばしていきたい。

そこで、小学校1年生から英語活動を行い英語の音やリズムに慣れ親しませ、5、6年生では教科型の授業を行い、中学校でつまずきの多い「読むこと」「書くこと」にも慣れ親しませながら、「聞くこと」「話すこと」と合わせて、中高へとつながる、初歩的な英語運用能力を養う指導方法を研究開発する。そして、小学校で培った初歩的な言語運用能力を踏まえ、中学校では、身近な事柄を中心に英語でコミュニケーションを図ることができる能力を養うため、内容に踏み込んだ言語活動を取り入れた授業を行うなど、指導方法や授業内容を研究開発する。高等学校では中学校で身に付けた能力の上に立って、英語を通じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養うため、言語活動の高度化など指導方法を研究開発する。

②研究仮説

小学校第1学年から、英語を用いてコミュニケーションをする楽しさを体験する英語活動の授業を行うことにより、コミュニケーション能力の素地が養われるであろう。そして、第5学年からは「読むこと」「書くこと」の指導を取り入れた教科としての英語の授業を行うことにより、小学校段階で初歩的な英語運用能力を養うことができるであろう。また中学校では小学校で培われた能力の上に立って、内容に踏み込んだ言語活動等を行うことにより、身近な事柄を中心に英語でコミュニケーションを図ることができる能力を養うことができるであろう。高等学校では中学校で身に付けた能力の上に立って、言語活動の高度化など指導方法の研究開発を行うことにより、英語を通じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養うことができるであろう。

小中高で連携のとれた指導方法、評価方法を議論し、高校までを見通した教育課程を研究することで、グローバル化に対応できる豊かなコミュニケーション能力の育成が図れるであろう。

③研究成果の評価方法

定期的に各委員会を開き、研究の進行状況について共通理解を図り、課題や改善点を出し合い、協議しながら、随時研究の方向性を必要に合わせ修正していく。また、運営指導委員会、阿波市英語活動・英語教育推進委員会で研究の推進状況を報告し、取組の成果を周知するとともに、指導・助言を受ける。

小学校では、毎時間の行動観察、写真、ビデオ等による記録、振り返りシート、児童英検などの外部テスト、児童へのアンケート調査、保護者へのアンケート等で実践を評価、改善につなげていく。

中学校では、毎時間の行動観察、写真、ビデオ等による記録、生徒の自己評価シート、生徒へ

のアンケート調査，スピーキングテスト，校内テスト，英語能力判定テスト・外部テスト，保護者へのアンケート等で実践を評価，改善につなげていく。

高等学校では，言語活動の高度化などの授業実践等について，授業記録や「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の達成度といった視点から実践を評価，改善へつなげていく。

教員の意識向上についても，各種研究会，研修会後の感想，英語活動・英語教育に関するアンケート等を行い，研究の推進，改善に生かす。

(4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第 1 学年 1 コマ	第 1 学年 1 コマ	第 1 学年 1 コマ	第 1 学年 1 コマ
②小学校 教科型	第 5 学年 2 コマ	第 5 学年 2 コマ	第 5 学年 2 コマ	第 5 学年 3 コマ

(5) 研究計画（平成 26 年度の進捗状況・課題）

○第一年次～第四年次，校種別

<小学校>

第一年次

「**第二年次からの小学校第 5・6 学年における英語科の授業（週 2 コマ）の実施に向けての研究及び準備を行う。**」

○運営指導委員会の設置（年間 3 回実施）

- ・研究の推進についての協議，指導助言等

○中学校区英語推進委員会の設置（月 1 回）

- ・情報交換，研究の方向性についての共通理解，研究の進捗状況についての報告，今後の計画等についての協議等

○阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催（年間 2 回実施）

- ・阿波市全域における英語教育の推進

○小中連携の推進（小中をつなぐ 4 つの柱）

- ・実態調査（児童英検，英語能力テスト「英語でクイズ」実施）
- ・児童生徒と教員をつなぐ取組（「阿波市小学校英語活動実践の手引」配布，児童生徒アンケート結果の活用等）
- ・小中教員をつなぐ取組（小教研，中教研への参加，校区内授業公開・見学会，研修会等）
- ・児童生徒をつなぐ取組（ビデオレターでの交流等）
- ・小学校と中学校をつなぐ取組（小中連携授業等）

○小中 9 年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についての研究

- ・小学校第 1 学年から第 4 学年までの英語活動の目標，評価
- ・小学校第 5・6 学年の英語科の目標，評価
- ・現在の阿波市小学校英語活動カリキュラムの修正及び Hi, friends! を活用したカリキュラム等についての研究

- ・小学校における指導方法（阿波市英語講師，ALT の効果的な活用等）についての研究
- ・小学校第 5・6 学年の英語科の教材等の準備，授業（試行）実践

○教員の指導力向上のための研修の実施

- ・研究推進に向けての研修計画作成
- ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施
- ・教員の英語力向上を図る研修の実施
- ・研究授業及び授業研究会の実施

○先進地域・先進校・全国大会への視察・参加

○校内体制の構築，校内環境整備に関する計画・実施

○保護者・地域への啓発（次年度へ向けての環境整備）

○研究の成果・課題の検証と次年度の計画

第二年次

「小学校第 5・6 学年における英語科の授業の在り方について実践をもとに検証を行い，第三年次における英語科の授業（週 2 コマ）の改善につなげる。また英語科の授業につながる小学校 1～4 学年における外国語活動の授業の在り方について実践をもとに検証を行い，第三年次における外国語活動の授業の改善につなげる。」

○運営指導委員会の開催（年間 3 回実施）

- ・研究の推進についての協議，指導助言等

○中学校区英語推進委員会（月 1 回）

- ・情報交換，研究の方向性についての修正・共通理解，研究の進捗状況についての報告，今後の計画等についての協議等

○阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催（年間 2 回実施）

- ・阿波市全域における英語教育の推進

○小中連携の推進（小中をつなぐ 4 つの柱）

- ・実態調査（児童英検，英語能力テスト「英語でクイズ」実施）
- ・児童生徒と教員をつなぐ取組（「阿波市小学校英語活動実践記録」配布，児童生徒アンケート結果の活用等，中学校教員の小 6 授業参加）
- ・小中教員をつなぐ取組（小教研，中教研への参加，校区内授業公開・見学会，研修会等）
- ・児童生徒をつなぐ取組（ビデオレターでの交流等）
- ・小学校と中学校をつなぐ取組（小中連携授業等）

○小中 9 年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についての研究・実施

- ・小学校第 1 学年から第 4 学年までの英語活動の目標，評価についての研究・実践
- ・小学校第 5・6 学年の英語科の目標，評価についての研究・実践
- ・阿波市小学校英語活動のカリキュラム，Hi, friends! を活用したカリキュラム等についての研究・実践

- ・文部科学省による小学校英語の教科化の先行実施のための教材の活用についての研究・実践

- ・小学校における指導方法（阿波市英語講師，ALT の効果的な活用等）についての研究・実践

- ・小学校第 5・6 学年の英語科の研究・授業実践

○新教育課程，カリキュラムの実施と検証，改善

- ・小学校第 5・6 学年は 2 時間の英語科を実施

- 教員の指導力向上のための研修の実施
 - ・研究推進に向けての研修計画作成
 - ・英語教育推進リーダー中央研修受講者による研修の実施
 - ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施
 - ・教員の英語力向上を図る研修の実施
 - ・研究授業及び授業研究会の実施
- 先進地域・先進校・全国大会への視察・参加
- 特別な教育課程による英語教育実施後の児童，教員，保護者の意識調査の実施と分析
- 校内体制の構築，校内環境整備に関する計画・実施
- 保護者・地域への啓発（次年度へ向けての環境整備）
- 研究の成果・課題の検証と次年度の計画

第三年次

「小学校第5・6学年における英語科の授業の在り方について実践をもとに検証を行い,第四年次における英語科の授業（週3コマ）の改善につなげる。また英語科の授業につながる小学校1～4学年における外国語活動の在り方について実践をもとに検証を行い，第三年次における外国語活動の授業の改善につなげる。」

- 運営指導委員会の開催（年間3回実施）
 - ・研究の推進についての協議，指導助言等
- 中学校区英語推進委員会（月1回）
 - ・情報交換，研究の方向性についての修正・共通理解，研究の進捗状況についての報告，今後の計画等についての協議
- 阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催（年間2回実施）
 - ・阿波市全域における英語教育の推進
- 小中連携の推進（小中をつなぐ4つの柱）
 - ・実態調査（児童英検，英語能力テスト「英語でクイズ」実施）
 - ・児童生徒と教員をつなぐ取組（「阿波市小学校英語活動実践の記録」配布，児童生徒アンケート結果の活用等，中学校教員の小6授業参加）
 - ・小中教員をつなぐ取組（小教研，中教研への参加，校区内授業公開・見学会，研修会等）
 - ・児童生徒をつなぐ取組（ビデオレターでの交流等）
 - ・小学校と中学校をつなぐ取組（小中連携授業等）
- 小中9年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についての実践・検証・改善
 - ・小学校第1学年から第4学年までの英語活動の目標，評価についての実践・検証・改善
 - ・小学校第5・6学年の英語科の目標，評価についての実践・検証・まとめ
 - ・阿波市小学校英語活動のカリキュラム，Hi, friends!を活用したカリキュラム等についての実践・検証・改善
 - ・文部科学省による小学校英語の教科化の先行実施のための教材の活用についての実践・検証
 - ・小学校における指導方法（阿波市英語講師，ALTの効果的な活用等）についての実践・検証・改善
 - ・小学校第5・6学年の英語科の授業実践・検証・改善
- 新教育課程，カリキュラムの実施と検証，改善

- ・小学校第5・6学年は2時間の英語科を実施し、検証・改善
- 教員の指導力向上のための研修の実施
 - ・英語教育推進リーダー中央研修受講者による研修の実施
 - ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施
 - ・教員の英語力向上を図る研修の実施
- 先進地域への視察
- 特別な教育課程による英語教育実施後の児童、教員、保護者の意識調査の実施と分析
- 校内体制の構築、校内環境整備の実施
- 保護者・地域への啓発（次年度へ向けての環境整備）
- 研究の成果・課題の検証と次年度の計画

第四年次

「小学校第5・6学年における英語科の授業の在り方について実践をもとに検証を行い、まとめる。また英語科の授業につながる小学校1～4学年における外国語活動の授業の在り方について実践をもとに検証を行い、まとめる。」

- 運営指導委員会の開催（年間3回実施）
 - ・研究の推進およびまとめについての協議、指導助言等
- 中学校区英語推進委員会（月1回）
 - ・情報交換、研究の報告・まとめ
- 阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催（年間2回実施）
 - ・阿波市全域における英語教育の推進
- 小中連携の推進（小中をつなぐ4つの柱）
 - ・実態調査（児童英検、英語能力テスト「英語でクイズ」実施）
 - ・児童生徒と教員をつなぐ取組（「阿波市小学校英語活動実践記録」配布、児童生徒アンケート結果の活用等、中学校教員の小6授業参加）
 - ・小中教員をつなぐ取組（小教研、中教研への参加、校区内授業公開・見学会、研修会等）
 - ・児童生徒をつなぐ取組（ビデオレターでの交流等）
 - ・小学校と中学校をつなぐ取組（小中連携授業等）
- 小中9年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についてのまとめ
 - ・小学校第1学年から第4学年までの英語活動の目標、評価についての検証・まとめ
 - ・小学校第5・6学年の英語科の目標、評価についての検証・まとめ
 - ・阿波市小学校英語活動のカリキュラム、Hi, friends!を活用したカリキュラム等についての検証・まとめ
 - ・文部科学省による小学校英語の教科化の先行実施のための教材の活用についての検証・まとめ
 - ・小学校における指導方法（阿波市英語講師、ALTの効果的な活用等）についての検証・まとめ
 - ・小学校第5・6学年の英語科の授業実践・検証・まとめ
- 新教育課程、カリキュラムの実施と検証
 - ・小学校第5・6学年は3時間の英語科を実施し、検証
- 教員の指導力向上のための研修の実施
 - ・英語教育推進リーダー中央研修受講者による研修の実施
 - ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施

- ・教員の英語力向上を図る研修の実施
- ・研究授業及び授業研究会の実施
- 校内体制の構築，校内環境整備の実施のまとめ
- 保護者・地域への啓発
- 研究の成果・課題のまとめ

<中学校>

第一年次

「小学校英語の教科化を見据え，授業の充実を図ると共に，身近な事柄を中心にコミュニケーションを図ることができる能力を養う授業の実践及び準備を行う。」

- 運営指導委員会の設置（年間3回実施）
 - ・研究の推進についての協議，指導助言等
- 校区英語推進委員会（月1回）
 - ・情報交換，研究の方向性についての共通理解，研究の進捗状況についての報告，今後の計画等について協議
- 阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催（年間2回実施）
 - ・阿波市全域における英語教育の推進
- 小中連携の推進（小中をつなぐ4つの柱）
 - ・事態調査（英語能力判定テスト，英語能力テスト「英語でクイズ」実施）
 - ・児童生徒と教員をつなぐ取組（「阿波市小学校英語活動実践の記録」配布，情報交換，児童生徒アンケート結果の活用等，中学校教員の小6授業参加）
 - ・小中教員をつなぐ取組（小教研，中教研への参加，校区内授業公開・見学会，研修会等）
 - ・児童生徒をつなぐ取組（ビデオレターでの交流等）
 - ・小学校と中学校をつなぐ取組（小中連携授業等）
- 中高連携の推進
 - ・研究授業・授業研究会への参加，中高の英語教員による乗り入れ授業の実施等を通しての中高連携の推進
- 小中9年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についての研究
 - ・小学校第1学年から第4学年までの英語活動の目標，評価
 - ・小学校第5・6学年の英語科の目標，評価
 - ・現在の阿波市小学校英語活動カリキュラムの修正及びHi, friends!を活用したカリキュラム等についての研究
 - ・小学校における指導方法（阿波市英語講師，ALTの効果的な活用等）についての研究
 - ・小学校第5・6学年の英語科の教材等の準備，授業（試行）実践
- 小学校における英語科の成果を踏まえた中学校英語科の目標と指導内容，評価等についての研究
 - ・指導方法の改善・充実，創意ある指導内容についての研究
 - ・阿波市英語講師との連携，ALTの活用等についての研究
- 教員の指導力向上のための研修の実施
 - ・研究授業及び授業研究会の実施

- ・研究推進に向けての研修計画作成
- ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施
- 先進地域・先進校・全国大会への視察・参加
- 校内体制の構築，校内環境整備に関する計画・実施
- 保護者・地域への啓発（次年度へ向けての環境整備）
- 研究の成果・課題の検証と次年度の計画

第二年次

「小学校英語の教科化を見据え，内容に踏み込んだ言語活動を重視した授業を行う等，身近な事柄を中心にコミュニケーションを図ることができる能力を養う授業の実践及び改善を行う。」

- 運営指導委員会の開催（年間3回実施）
 - ・研究の推進についての協議，指導助言等
- 中学校区英語推進委員会（月1回）
 - ・情報交換，研究の方向性についての共通理解，修正，研究の進捗状況についての報告，今後の計画等について協議
- 阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催（年間2回実施）
 - ・阿波市全域における英語教育の推進
- 小中連携の推進（小中をつなぐ4つの柱）
 - ・実態調査（英語能力判定テスト，英語能力テスト「英語でクイズ」実施）
 - ・児童生徒と教員をつなぐ取組（「阿波市小学校英語活動実践記録」配布，情報交換，児童生徒アンケート結果の活用，中学校教員の小6授業参加等）
 - ・小中教員をつなぐ取組（小教研，中教研への参加，校区内授業公開・見学会，研修会等）
 - ・児童生徒をつなぐ取組（ビデオレターでの交流等）
 - ・小学校と中学校をつなぐ取組（小中連携授業等）
- 中高連携の推進
 - ・研究授業・授業研究会への参加，中高の英語教員による乗り入れ授業の実施等を通しての中高連携の推進
- 小中9年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についての研究・実施
 - ・小学校第1学年から第4学年までの英語活動の目標，評価についての研究・実践
 - ・小学校第5・6学年の英語科の目標，評価についての研究・実践
 - ・阿波市小学校英語活動のカリキュラム，Hi, friends!，を活用したカリキュラム等についての研究・実践
 - ・文部科学省による小学校英語の教科化の先行実施のための教材の活用についての研究・実践
 - ・小学校における指導方法（阿波市英語講師，ALTの効果的な活用等）についての研究・実践
 - ・小学校第5・6学年の英語科の教材等の作成
- 小学校における英語科の成果を踏まえた中学校英語科の目標と指導内容，評価等についての研究・実践
 - ・指導方法の改善・充実，創意ある指導内容についての研究・実践
 - ・阿波市英語講師との連携，ALTの活用等についての研究・実践
- 教員の指導力向上のための研修の実施
 - ・研究授業及び授業研究会の実施

- ・研究推進に向けての研修計画作成
- ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施
- 先進地域・先進校・全国大会への視察・参加
- 特別な教育課程による英語教育実施後の生徒，教員，保護者の意識調査の実施と分析
- 校内体制の構築，校内環境整備に関する計画・実施
- 保護者・地域への啓発（次年度へ向けての環境整備）
- 研究の成果・課題の検証と次年度の計画

第三年次

「小学校で教科として英語の授業を受けてきた中学1年生に対して，小学校とのつながりを踏まえた授業実践及び検証を行うと共に，内容に踏み込んだ言語活動を重視した授業を行う等，身近な事柄を中心にコミュニケーションを図ることができる能力を養う授業の実践及び検証を行う。」

- 運営指導委員会の開催（年間3回実施）
 - ・研究の推進についての協議，指導助言等
- 中学校区英語推進委員会（月1回）
 - ・情報交換，研究の方向性についての共通理解，修正，研究の進捗状況についての報告，今後の計画等について協議
- 阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催（年間2回実施）
 - ・阿波市全域における英語教育の推進
- 小中連携の推進（小中をつなぐ4つの柱）
 - ・実態調査（英語能力判定テスト，英語能力テスト「英語でクイズ」実施）
 - ・児童生徒と教員をつなぐ取組（「阿波市小学校英語活動実践記録」配布，情報交換，児童生徒アンケート結果の活用。中学校教員の小6授業参加等）
 - ・小中教員をつなぐ取組（小教研，中教研への参加，校区内授業公開・見学会，研修会，英語活動通信等）
 - ・児童生徒をつなぐ取組（ビデオレターでの交流等）
 - ・小学校と中学校をつなぐ取組（小中連携授業等）
- 中高連携の推進
 - ・研究授業・授業研究会への参加，中高の英語教員による乗り入れ授業の実施等を通しての中高連携の推進
- 小中9年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についての実践・検証・改善
 - ・小学校第1学年から第4学年までの英語活動の目標，評価についての実践・検証・改善
 - ・小学校第5・6学年の英語科の目標，評価についての実践・検証・まとめ
 - ・阿波市小学校英語活動のカリキュラム，Hi, friends!を活用したカリキュラム等についての実践・検証・改善
 - ・文部科学省による小学校英語の教科化の先行実施のための教材の活用についての実践・検証
 - ・小学校における指導方法（阿波市英語講師，ALTの効果的な活用等）についての実践・検証・改善
 - ・小学校第5・6学年の英語科の教材等の作成
- 小学校における英語科の成果を踏まえた中学校英語科の目標と指導内容，評価等についての実

実践・検証・改善

- ・指導方法の改善・充実, 創意ある指導内容についての実践・検証・改善
- ・阿波市英語講師との連携, ALT の活用等についての実践・検証・改善
- 教員の指導力向上のための研修の実施
 - ・研究授業及び授業研究会
 - ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施
- 先進地域・先進校・全国大会への視察・参加
- 特別な教育課程による英語教育実施後の生徒, 教員, 保護者の意識調査の実施と分析
- 校内体制の構築, 校内環境整備の実施
- 保護者・地域への啓発 (次年度へ向けての環境整備)
- 研究の成果・課題の検証と次年度の計画

第四年次

「小学校で教科として英語の授業を受けてきた中学1年生に対して, 小学校とのつながりを踏まえた授業実践及び検証を行うと共に, 内容に踏み込んだ言語活動を重視した授業を行う等, 身近な事柄を中心にコミュニケーションを図ることができる能力を養う授業の実践及びまとめを行う。」

- 運営指導委員会の開催 (年間3回実施)
 - ・研究の推進についての協議, 指導助言等
- 中学校区英語推進委員会 (月1回)
 - ・情報交換, 研究についての報告・まとめ
- 阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催 (年間2回実施)
 - ・阿波市全域における英語教育の推進
- 小中連携の推進 (小中をつなぐ4つの柱)
 - ・実態調査 (英語能力判定テスト, 英語能力テスト「英語でクイズ」実施)
 - ・児童生徒と教員をつなぐ取組 (「阿波市小学校英語活動実践記録」配布, 情報交換, 児童生徒アンケート結果の活用, 中学校教員の小6授業参加等)
 - ・小中教員をつなぐ取組 (小教研, 中教研への参加, 校区内授業公開・見学会, 研修会, 英語活動通信等)
 - ・児童生徒をつなぐ取組 (ビデオレターでの交流等)
 - ・小学校と中学校をつなぐ取組 (小中連携授業等)
- 中高連携の推進
 - ・研究授業・授業研究会への参加, 中高の英語教員による乗り入れ授業の実施等を通しての中高連携の推進
- 小中9年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についてのまとめ
 - ・小学校第1学年から第4学年までの英語活動の目標, 評価についての検証・まとめ
 - ・小学校第5・6学年の英語科の目標, 評価についての検証・まとめ
 - ・阿波市小学校英語活動のカリキュラム, Hi, friends! を活用したカリキュラム等についての検証・まとめ
 - ・文部科学省による小学校英語の教科化の先行実施のための教材の活用についての検証・まとめ
 - ・小学校における指導方法 (阿波市英語講師, ALT の効果的な活用等) についての検証・まとめ

○小学校における英語科の成果を踏まえた中学校英語科の目標と指導内容，評価等についてのまとめ

- ・指導方法の改善・充実，創意ある指導内容についてのまとめ
- ・阿波市英語講師との連携，ALT の活用等についてのまとめ

○教員の指導力向上のための研修の実施

- ・研究授業及び授業研究会
- ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施

○特別な教育課程による英語教育実施後の生徒，教員，保護者の意識調査の実施と分析

○校内体制の構築，校内環境整備の実施

○保護者・地域への啓発

○研究の成果・課題のまとめ

<高等学校>

第一年次

「中学校とのつながりを踏まえた授業実践を行うと共に，言語活動を高度化した授業を行う等，英語を通じて情報や考えなどを的確に表現したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う授業の実践及び準備を行う。」

○運営指導委員会の開催（年間3回実施）

- ・校種の枠を越えた情報交換
- ・研究の推進についての協議，指導助言等

○強化地域拠点事業研究会の開催

- ・情報交換，研究についての協議
- ・研究の方向性についての共通理解，有機的な連携，今後の計画等についての協議

○授業及び評価についての研究

- ・小学校及び中学校における学びを生かした授業改善，中学校から高等学校へのブリッジユニットの研究，言語活動の高度化の研究，効果的なパフォーマンステスト（スピーキングテスト・ライティングテスト）の研究，「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の作成

○阿波市における研究授業・授業研究会への参加

○先進地域への視察

○研究の成果・課題の検証と次年度の計画

二年次

「中学校とのつながりを踏まえた授業実践を行うと共に，言語活動を高度化した授業を行う等，英語を通じて情報や考えなどを的確に表現したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う授業の実践及び改善を行う。」

○運営指導委員会の開催（年間3回実施）

- ・校種の枠を越えた情報交換
- ・研究の推進についての協議，指導助言等

○強化地域拠点事業研究会の開催

- ・情報交換，研究についての協議

- ・第一年次の成果と課題を踏まえての研究の方向修正, 情報交換, 有機的な連携, 今後の計画等についての協議

○授業及び評価についての研究

- ・小学校及び中学校における学びを生かした授業改善, 中学校から高等学校へのブリッジユニットの実施, 言語活動の高度化の研究・実践, 効果的なパフォーマンステスト(スピーキングテスト・ライティングテスト)の研究・実践, 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の検証

○阿波市における研究授業・授業研究会への参加

○有機的な連携(中高)についての研究・実践

○先進地域への視察

○研究の成果・課題の検証と次年度の計画

第三年次

「中学校とのつながりを踏まえた授業実践を行うと共に, 言語活動を高度化した授業を行う等, 英語を通じて情報や考えなどを的確に表現したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う授業の実践及び改善を行う。」

○運営指導委員会の開催(年間3回実施)

- ・校種の枠を越えた情報交換
- ・研究の推進についての協議, 指導助言等

○強化地域拠点事業研究会の開催

- ・情報交換, 研究についての協議

- ・第二年次の成果と課題を踏まえての研究の方向修正, 情報交換, 有機的な連携, 今後の計画等についての協議

○授業及び評価についての研究

- ・小学校及び中学校における学びを生かした授業改善, 中学校から高等学校へのブリッジユニットの検証, 言語活動の高度化の実践・検証, 効果的なパフォーマンステスト(スピーキングテスト・ライティングテスト)の実践・検証, 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の公表・検証

○阿波市における研究授業・授業研究会への参加

○有機的な連携(中高)についての実践・検証

○公開授業の実施

○研究の成果・課題の検証と次年度の計画

第四年次

「中学校とのつながりを踏まえた授業実践を行うと共に, 言語活動を高度化した授業を行う等, 英語を通じて情報や考えなどを的確に表現したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う授業の実践及びまとめを行う。」

○運営指導委員会の開催(年間3回実施)

- ・校種の枠を越えた情報交換
- ・研究の推進についての協議, 指導助言等

○強化地域拠点事業研究会の開催

- ・情報交換，研究についての協議
- ・第三年次の成果と課題を踏まえての研究の方向修正，情報交換，有機的な連携，阿波市としての今後の方針等についての協議
- 阿波市における研究授業・授業研究会への参加
 - ・小学校及び中学校における学びを生かした授業改善についてのまとめ，中学校から高等学校へのブリッジユニットについてのまとめ
- 授業及び評価についての研究
 - ・言語活動の高度化の実践・検証・まとめ，効果的なパフォーマンステスト（スピーキングテスト・ライティングテスト）の検証・まとめ，「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の検証・まとめ
- 公開授業の実施

●平成26年度の進捗状況・課題

<小中学校>

（成果）

- 先進校視察を通して，様々な学校の取り組み状況を把握することができた。
- 外部講師から研修会で指導や助言をいただき，研究の見直しや修正ができた。
- 外部講師によるスキルアップ研修を通して，知識や技能の向上を図ることができた。
- 小学校で校内英語部会を立ち上げ，全教員が「授業研究部」「実態調査部」「環境改善部」のいずれかに所属し，活動することができた。その部会で英語の環境整備や，実態調査の集計等ができた。
- 英語推進委員会を毎月定期に開くことができ，情報交換や研究の方向性について話し合うことができた。その結果，これまでの本市の外国語活動の取り組みの見直しができ，小一，小一中間の連携意識が高まった。

（課題）

- 年度途中で校内英語部会を立ち上げたが，計画的に部会を進めることができなかった。
→研修主任と連携し，年度初めに研修計画に位置付けておく。
- 教員の指導力向上のための研究授業を年度当初の計画通りに実施することができず，中学校で1回，3小学校で2回しかできなかった。→次年度は学校ごとに研究授業計画を年度初めに立て，計画的に取り組むようにする。
- 英語推進委員会を平日の放課後に実施しているため，時間を十分確保できず，話し合いの内容を深めることができなかった。また，協議内容が所属校の管理職や教員に十分，報告されていなかった。→定例会プログラムを作成する。推進委員は会議後，報告・連絡を所属校の管理職や教職員に徹底する。
- カリキュラム，指導内容，到達目標等の原案作成および検討する十分な時間がとれなかった。

<高等学校>

（成果）

- 高校入試を経て本校に入学してくる生徒の実態を考え，まずは英語に対する苦手意識をなくし授業に前向きに取り組めるようペアワークやグループワークを多く取り入れた。

（課題）

- 1年生については、2学期にインタビューテストを実施した。回数を増やすには、時間の確保・場所の設定が難しい。
- Can-Do リストの作成にあたっては、基礎学力が十分身につけていない生徒が多く、学力差もあるため、どこに照準を合わせればよいのか苦労した。

(6) 評価計画 (平成26年度の進捗状況・課題)

第一年次～第四年次, 校種別

【各校種とも次のそれぞれの項目に関して、その内容や方法等について、評価を行う。】

<小学校>

第一年次

○児童の意識及び学習の到達度について

- ・特別な教育課程実施前の実態を把握し、次年度の計画に生かす。
- ・毎時間の行動観察, 児童生徒の振り返りシート, 感想等の活用, ビデオ等の記録, 児童英検, アンケート調査

○研究推進について

- ・定期的に, 中学校区英語推進委員会を開催。研究の計画, 実施状況, 問題点, 改善点等について協議しながら, 研究の方向性を修正する。
- ・運営指導委員会, 阿波市英語活動・英語教育推進委員会にて研究推進状況を報告。指導・助言を受ける。

○教員の指導力及び意識の向上について

- ・授業研究会の実施 (年間3回)
- ・教職員の授業力向上のための研修会の実施 (年間3回)
- ・先進校を視察し, 内容についてまとめ教職員に広める。
- ・校内体制を構築し, 研修計画の作成等に生かす。

第二年次

前年度の実践を踏まえて第二年次の評価項目を立て, それぞれの分野で評価を行う。その成果・課題を検証。前年度と比較しながら, 改善につなげる。

第三年次

前年度の実践を踏まえて第三年次の評価項目を立て, それぞれの分野で評価を行う。その成果・課題を検証。前年度と比較しながら, 改善につなげる。

第四年次

前年度の実践を踏まえて第四年次の評価項目を立て, それぞれの分野で評価を行う。4年間のデータを集計・分析し, 本研究開発のまとめを行う。

<中学校>

第一年次

- ・次の項目に関する評価に関して, その内容や方法等について研究を行い, 評価を行う。

○生徒の意識及び学習の到達度について

- ・特別な教育課程実施前の実態を把握し、次年度の計画に生かす。
- ・毎時間の行動観察、生徒の自己評価シート、感想等の活用、ビデオ等の記録、スピーキングテスト等のパフォーマンステスト、英検英語能力判定テスト、アンケート調査

○研究推進について

- ・定期的に、中学校区英語推進委員会を開催。研究の計画、実施状況、問題点、改善点等について協議しながら、研究の方向性を修正する。
- ・運営指導委員会、市英語活動・英語教育推進委員会にて研究推進状況を報告。指導・助言を受ける。

○教員の指導力及び意識の向上について

- ・授業研究会の実施（年間2回）
- ・教職員の授業力向上のための研修会の実施（年間3回）
- ・先進校を視察し、内容についてまとめ教職員に広める。
- ・教員対象にアンケート等を実施。校内体制、研修計画等に生かす。

○保護者の意識について

- ・アンケート調査を実施。検証して、次年度の計画に生かす。

第二年次

前年度の実践を踏まえて第二年次の評価項目を立て、それぞれの分野で評価を行う。その成果・課題を検証。前年度と比較しながら、改善につなげる。

第三年次

前年度の実践を踏まえて第三年次の評価項目を立て、それぞれの分野で評価を行う。その成果・課題を検証。前年度と比較しながら、改善につなげる。

第四年次

前年度の実践を踏まえて第四年次の評価項目を立て、それぞれの分野で評価を行う。4年間のデータを集計・分析し、本研究開発のまとめを行う。

<高等学校>

第一年次

○授業及び評価について

- ・小学校及び中学校における学びを生かした授業改善、中学校から高等学校へのブリッジユニット、言語活動の高度化、効果的なパフォーマンステスト（スピーキングテスト・ライティングテスト）、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標、

○中高の連携についての研究について

- ・有機的な中高連携

○教員の意識及び指導力の向上について

- ・先進校を視察し、内容についてまとめ教職員に広める。

第二年次

前年度の実践を踏まえて第二年次の評価項目を立て、それぞれの分野で評価を行う。その成果・課題を検証。前年度と比較しながら、改善につなげる。

第三年次

前年度の実践を踏まえて第三年次の評価項目を立て、それぞれの分野で評価を行う。その成果・

課題を検証。前年度と比較しながら，改善につなげる。

第四年次

前年度の実践を踏まえて第四年次の評価項目を立て，それぞれの分野で評価を行う。4年間のデータを集計・分析し，本研究開発のまとめを行う。

●平成26年度の進捗状況・課題

<小中学校>

(成果)

○小学校今年度は研究開発の準備段階と位置づけ，下記の実態調査を実施し，これまでの取組の成果と課題を客観的に把握することができた。

- ・情意面・・・小学校外国語活動に関するアンケート調査（中1に4月実施）
- ・技能面・・・本市独自作成の英語能力テスト『英語でクイズ』（小5～中1に5月実施）
児童英検（小5～6年に12月実施）
英語能力判定テスト（中1～3年に12月実施）

(課題)

○次年度からの実施に向け，小学校英語の教科化・早期化に向けての評価の在り方等についての検討がまだ十分には行えていない。

○次年度は年度初めと終わりに，教員にアンケート調査を実施し，教員の意識変化を分析したいと考えている。

<高等学校>

(成果)

○2月に授業研究会を行い，生徒の実態に応じた評価の在り方について研究を深める機会を設けている。

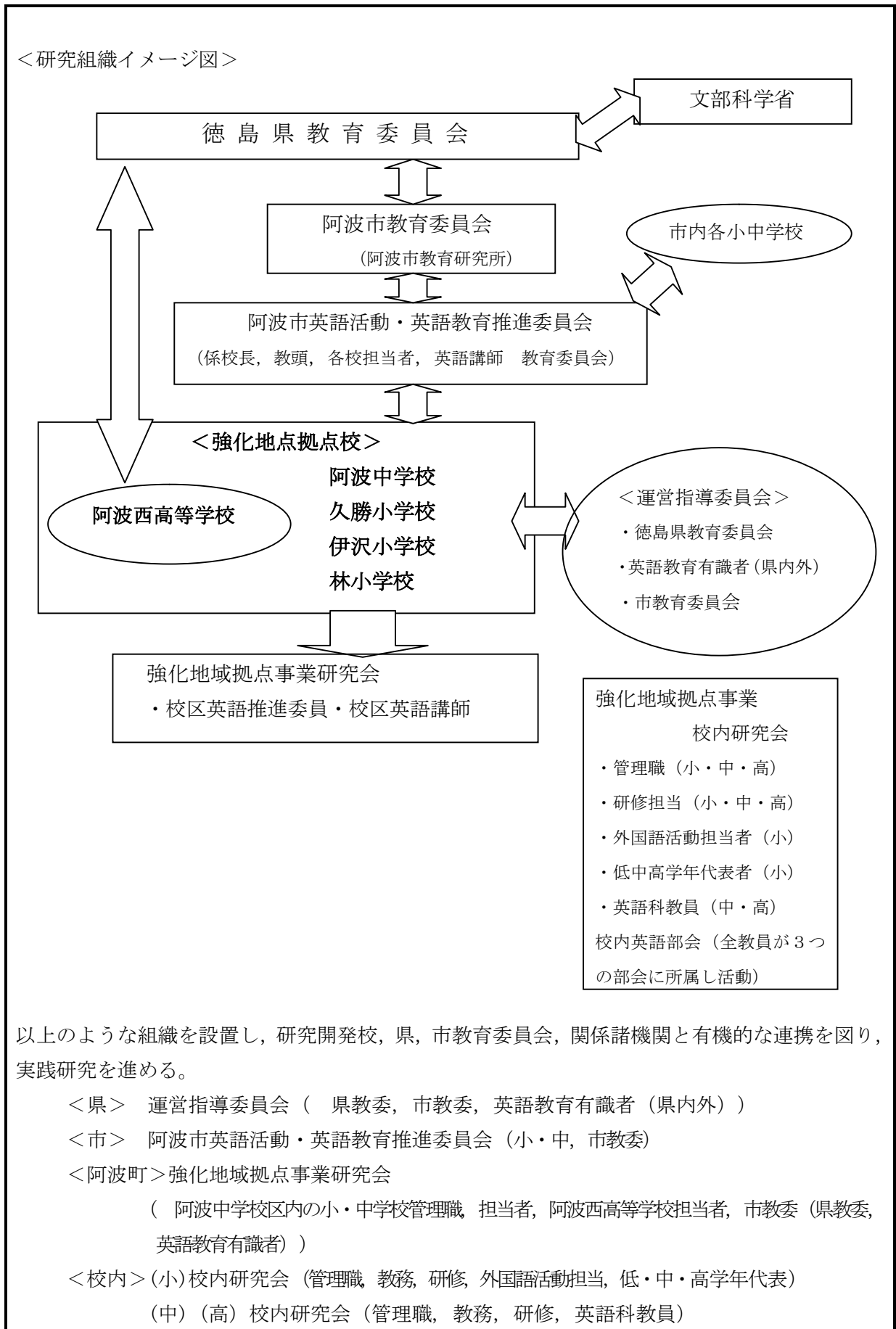
(課題)

○毎回の学習内容の積み重ねに課題のある生徒も多く，よりよい評価の在り方について検討しなければならない。

○書くことに対して苦手意識を感じている生徒が多く，書くことについての効果的な指導がまだ十分には行えていない。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要 (平成26年度の進捗状況・課題)



●平成26年度の進捗状況・課題

(成果)

- 年間3回の運営指導委員会, また各校における授業研究会において運営指導委員の大学の先生を講師に招き, 研究推進にあたって具体的な指導助言をいただくことができた。

(課題)

- 校内英語推進委員会等の運営・活用等に関して, 組織的に研究推進を進める体制を構築することが十分にできなかったこともあり, 計画的な研究開発に不十分な面があった。また, 3小学校の実態が異なることもあり, 足並みをそろえて研究に取り組むことが難しい面があった。

(2) 運営指導委員会

活動計画 (平成26年度の進捗状況・課題)

○活動計画

1. 研究主題, 研究の内容, 方法等について指導助言を行う。
毎年度末には, 事業の成果・課題について検証を行う。
2. 教員の指導力向上のための活動計画等についての助言を行う。
(外部講師の調整・講演会や研修会の持ち方, 指導案, カリキュラムの作成, 評価, 教材開発等について)
3. 授業研究会を通して指導方法の工夫改善への指導助言を行う。
(英語講師とのT・T, ALTとのT・T, 小学校学級担任単独による授業, 小学校第1学年～第4学年における英語活動の授業, 第5・6学年における英語科の授業, 小学校の成果を踏まえた中学校の授業, 創意工夫ある教材・ICTの効果的な活用方法等)
4. 英語講師, ALTの効果的な活用についての指導助言を行う。
(それぞれの特性を生かした指導方法, 授業における学級担任の役割等)
5. 児童生徒の興味・関心, 目標達成状況の変容等について分析を行い, 研究の改善, 充実へ向けた指導助言を行う。
6. 小・中・高等学校教員の連携, 児童生徒同士の連携の在り方について指導助言を行う。
(異校種の教員による授業見学会, 研究会への参加により, 情報交換, 意見交換の場の持ち方について)
7. 本研究の成果を広く周知するための支援を行う。(冊子作成, 授業公開, 研究発表等)

●平成26年度の進捗状況・課題

<全体>

- 年間3回の運営指導委員会を開催(第3回は3月5日に開催予定)し, 研究開発の取組や方向性について有意義な助言をいただいた。第2回の運営指導委員会では小学校3年生において研究授業も行い, 授業の進め方や留意点等について具体的な指導助言をいただいた。

<小中学校>

- 運営指導委員や研修会に来ていただいた講師の方々の指導助言を踏まえた事後検討や実践が

まだ不十分である。

<高等学校>

○卒業後の職業観を考慮に入れ卒業までに英語でどんなことができるようになりたいのか、生徒のニーズや目的を知ることから、活動を考えてもよいのではないかと講師の方々からアドバイスをいただいたのは有意義であった。

5. 年間事業経過

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○校内体制の構築, 校内環境整備に関する計画 ○第1回阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催(28名) <ul style="list-style-type: none"> ・阿波市全体の今年度の取組について共通理解 ・研究開発校のサポート体制づくり ○英語教育強化地域拠点事業説明会(管理職・教務主任)(13名) ○英語学習に関するアンケート調査(中学1年) 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○強化地域拠点事業研究会(小学5～6年担当, 中学校英語科教員, 英語講師, 校区小中学校係校長・係教頭)(16名) ○小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業説明会参加(文部科学省)(2名) ○英語能力実態調査「英語でクイズ」(小5～6年, 中1年) 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○先進校視察(昭和女子大学)(3名) ○林小学校 校内英語研修会 ○第1回 中学校区英語推進委員会(7名) 	第1回運営指導委員会
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○特別な教育課程実施前の児童生徒の意識調査の実施と分析 ○先進校視察(北海道教育大学附属札幌小学校)(3名) ○第2回 中学校区英語推進委員会(7名) ○伊沢小学校外国語活動研修会 講師:梅本龍多氏(21名) 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の指導力向上のための研修(中学校) <ul style="list-style-type: none"> 講師:ピーター・ファーガソン氏(16名) (阿波市英語教育夏期研修を兼ねる) ○教員の指導力向上のための研修(小学校) <ul style="list-style-type: none"> 講師:兼重 昇氏(44名) 講師:大牛 英則氏(51名) (阿波市英語教育夏期研修を兼ねる) ○先進地域・先進校・全国大会への視察・参加 ○先進校視察(関西大学初等部)(3名) ○林小学校 英語研修会 	

	<p>○林小学校 外国語活動研修会 講師：小泉 清裕氏（40名）</p> <p>○実態調査結果報告書配布 ・英語能力判定テスト『英語でクイズ』 ・中学1年アンケートによる意識調査</p>	
9月	○中学校区英語推進委員会（7名）	
10月	<p>○中学校区英語推進委員会（7名）</p> <p>○阿波中学校英語研修会 授業者：森脇和美（1年1組 教諭） 田村省子（英語講師） 講師：樫葉 みつ子氏（17名）</p>	
11月	<p>○久勝小学校 英語研修会 授業者：原田直人（5年 HRT） 田村省子（英語講師） 講師：ピーター・ファーガソン氏（26名）</p> <p>○県内研修会参加 ・徳島市福島小学校（第1回外国語活動研究発表大会） （教諭4名 英語講師1名） ・鳴門市林崎小学校&第二中学校（5名）</p>	第2回運営指導委員会
12月	<p>○児童英検実施（5・6年生）</p> <p>○英語能力判定テスト実施（中学1～3年）</p> <p>○次年度の小中連携のあり方提案（市内校長会）</p> <p>○林小学校 英語研修会 講師：伊東 治己 氏（21名）</p> <p>○中学校区英語推進委員会（6名）</p>	
1月	<p>○保護者・地域への啓発（次年度へ向けての環境整備）</p> <p>○新教育課程へ向けての教材・教具，機器等の整備</p> <p>○英語教育強化地域拠点事業連絡協議会参加（文部科学省） （5名）</p> <p>○中学校区英語推進委員会</p>	
2月	<p>○第2回阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催 ・今年度の成果と課題，情報交換，共通理解</p> <p>○授業研究会（高等学校） 授業者：（2年3組 横山浩司教諭） 講師：伊東 治己氏（12名）</p> <p>○先進校視察（北海道教育大学附属札幌小学校）（1名）</p>	
3月	<p>○強化地域拠点事業研究会 ・研究の成果・課題の検証と次年度の計画</p>	第3回運営指導委員会

【その他の取組】※あれば記入

〈本事業担当連絡先〉

都道府県教育委員会等名	徳島県教育委員会 学校政策課 担当（ 曾我部 ）
連絡先 （電話番号）	代表：088-621-3135 （内線）3206
（電子メール）	直通：088-621-3206 E-mail：sogabe_yuuji_1@pref.tokushima.lg.lg